

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> R6年度市学習状況調査の結果から全体的に学力は高い傾向が見られるが、個人差が大きい。 <指導上の課題> 個々の学習状況を把握し、個に応じた指導方法について工夫・改善していく余地がある。	⇒ 導入の工夫や個別最適な学習を軸とし、知的好奇心を高めるような授業づくりを推進する。【学期末・学期に1回計3回：共有・見直し・改善】 ⇒ スクールダッシュボードを活用しデータを蓄積したり、意図的・計画的な設問等による振り返りの時間を確保したりする。また、ルーブリック評価を活用するなど児童の学習状況を把握し、指導に生かす。【通年・振り返りは学年の実態に応じて設定。単元末には必ず実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語、算数において、相手の意図を汲み取って聞くことや書くこと、場面設定から状況を想像して問題解決する力に課題が見られる。 <指導上の課題> 教科横断的に「話す」ことだけでなく、「聞く」ことに重点をおいた指導の充実。	⇒ 話合いの視点を明確にし、相手意識をもたせたりする。その際、「聞く」ことに価値を見出せるように働きかける。また、場面を図に整理したり活用したりして、根拠をもって視覚的に説明できるように指導していく。 ⇒ 協働的な活動において、教師がどのように関わるかが効果的なのか検証していく。【通年・学期に1回計3回：共有・見直し・改善】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの教科(国語・算数・理科)においても全国・県平均の正答率を上回った。しかし、算数の「変化と関係」及び「図形」の領域、理科の「エネルギー」を柱とする領域の「電気に関する」設問の正答率は低かった。また、「将来の夢や目標はもっていますか」の設問では、全国・県平均ともに肯定的な回答が下回った。学習で得た「知識・技能」は、身近な職業や生活と結びつくことや、児童の「なぜだろう」を引き出し、気付きから学習を深められるように授業改善を進めていく。	
思考・判断・表現	どの教科(国語・算数・理科)においても全国・県平均の正答率を上回った。一方、国語では、「目的に応じて文章と図を結び付けるなどして、必要な情報を見付けること」に関する設問で正答率が低かった。算数では、解答の根拠を式や言葉、図を用いて記述する設問において正答率が低かった。読み取った情報を整理し、各教科の特性に応じた「専門用語」を活かして説明したり、書いたりすることができるよう、より一層指導を工夫していく。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学年の実態や教科の特性に応じて、朝学習や授業の中でICTを活用し、一人ひとりの課題に応じた学習機会を保障することができた。児童が自らの学びを自覚できるような、振り返りの時間を学年の実態に応じて設定しているが、データの蓄積による児童の実態把握やルーブリック評価の効果については、今後も検証していく。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科において、相手意識をもって表現することを指導した。その際、よい「話し手」や「聞き手」の姿を具体的に示し、価値づけるように指導を工夫した。引き続き、根拠をもって相手に伝わるように話す力や、相手の意図を汲み取りながら聞く力を学年の発達段階に応じて指導していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)